

古文ドリル：「せ」の識別 100問

対象：高校生・大学受験生（共通テスト～難関私大・国公立二次まで） 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：「せ」の正体（4パターン）

古文の「せ」は識別問題で頻出。大きく **4種類** あります。

種類	接続/品詞	判別ポイント	例
① 過去の助動詞「き」未然形「せ」	連用形接続	「せ+ば～まし」（反実仮想）	行か せば 、見 まし
② サ変動詞「す」未然形「せ」	一語のサ変	「す」一語+打消/推量	旅行 せず ／勉強 せむ
③ 使役の助動詞「す」未然形「せ」	四段・ナ変・ラ変未然形接続	「～せ+たまふ／む／ず」	行か せ たまふ（行かせなざる）
④ 尊敬の助動詞「す」未然形「せ」	四段・ナ変・ラ変未然形接続	「～せ+たまふ」二重敬語	仰 せ らる（おっしゃる）

識別の鉄則

1. **直前の語の活用形と品詞** を見る
2. サ変「す」一語 → サ変未然形「せ」
3. 四段・ナ変・ラ変の未然形+「せ」 → 使役・尊敬の「す」未然形
4. **下接語** を見る
5. 「せ+ば～まし」 → 過去「き」未然形（反実仮想）
6. 「せ+ず」「せ+む」 → サ変「す」未然形
7. 「せ+たまふ」 → 使役・尊敬の助動詞「す」（高貴な主語なら尊敬の二重敬語）
8. **反実仮想「ませば～まし／せば～まし」** は重要構文。「もし～だったら、～だろうに」
9. **使役と尊敬の助動詞「す」の見分け**
10. 下に尊敬語が続く（たまふ・おはす）+ 高貴な主語 → 尊敬の二重敬語
11. 下に尊敬語がない or 主語が一般人 → 使役

🎯 解き方のコツ (時短テクニック)

「識別の鉄則」は文法的に正しい順序。

こちらは **試験本番で3秒で答えを出す** ための実戦テクニックです。

コツ① 「せば〜まし」が見えたら 過去「き」未然形 で即決

- 「せ+ば」と「文の後ろに **まし**」がセットで出てきたら → **反実仮想** 「もし〜だったら〜だろうに」
- これは古文の重要構文。形を見た瞬間に答えを書く。
- 例: 「世の中にたえて桜のなかり**せば**春の心はのどけから**まし**」

コツ② 「せ給ふ/せたまふ」を見たら 使役か尊敬かを2秒で判定

- 直前の動詞が **四段・ナ変・ラ変の未然形** → 助動詞「す」未然形「せ」
- 主語が **天皇・中宮など最高位+自分で動作** → **尊敬の二重敬語** 「お〜になる」
- 主語が貴人でも **別の人にやらせている** → **使役** 「〜させなさる」
- 「〇〇に〜せ給ふ」のように「〇〇に」があれば使役で確定。

コツ③ 直前の語幹が 意味を持つ独立した名詞 ならサ変「す」未然形

- 「旅行**せず**」「勉強**せむ**」「物語**せばや**」 → 名詞+サ変「す」の組合せ
- 「せ+ず/せ+む/せ+ばや」 → サ変「す」未然形「せ」が定番。
- 名詞か動詞語尾かをまず判定。

コツ④ 「仰せ/思せ/きこえさせ」など 一語の尊敬動詞 に注意

- 「仰す (おほす)」「思す (おぼす)」は **それ自体で尊敬語**。「せ」を切り出さない。
- 「きこえさす」も使役の助動詞ではなく **謙讓語の一語**。
- 形を見て「一語動詞」と判断できれば、識別問題から除外できる。

試験本番でのチェック順序

1. 「せば〜まし」のセットを探す (YES → 過去「き」未然形で終了)
2. 直後が「給ふ/たまふ/おほす」 → 使役 or 尊敬 (主語と動作主で判定)
3. 直前が **名詞** → サ変「す」未然形
4. 「仰せ・思せ」など **一語の尊敬動詞** ではないか確認

→ この順番で **3秒** で答えが出ます。

よくある引っかけ

- 「**せ給ふ**」を必ず尊敬の二重敬語と決めつけない → 動作主が別人なら使役+尊敬

- 「**仰せらる**」の「**せ**」は **動詞「仰す」の一部**。助動詞ではない
- 「**せ+ず**」をサ変と決めつけない → 直前が四段未然形なら使役・尊敬の「す」未然形「**せ**」(例:「行か**せ**ず」=行かせない)
- 「**せばや**」は「サ変未然形+願望ばや」or「過去せ+係助詞ばや」で文脈による

採点表

- 基礎 (Q1~Q20) : /20
- 標準 (Q21~Q50) : /30
- 応用 (Q51~Q80) : /30
- 入試レベル (Q81~Q100) : /20
- 合計 : /100

【第1部】基礎編 (Q1~Q20)

4パターンを識別する基本問題。

Q1. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

月見**せば**、思ひ出でなまし。

Q2. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

旅行**せず**。

Q3. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、行か**せた**まふ。

Q4. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

主、家臣に物を取ら**せた**まふ。

Q5. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

春過ぎて夏来**せ**ば、衣替へまし。

Q6. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

勉強**せ**ね。

Q7. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

仰**せ**らる。

Q8. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

あ**ら**せたまへ。

Q9. 次の傍線部「ませ」を識別せよ。

風吹か**ませ**ば、波立たまし。

Q10. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

試験を**せ**む。

Q11. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

中宮、御文書か**せ**たまふ。

Q12. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

弟に仕事**せ**さす。

Q13. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

知り**せ**ば、来まし。

Q14. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

大臣、馬を走ら**せ**たまふ。

Q15. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

解か**せ**たまへ。

Q16. 次の傍線部「し」を識別せよ。

法師、念仏**し**たり。

Q17. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

君、御階を昇ら**せ**たまふ。

Q18. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

物言は**せ**ば、答へまし。

Q19. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

旅せじ。

Q20. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

御製を作らせたまふ。

基礎編 / 20

【第2部】 標準編 (Q21~Q50)

反実仮想構文、使役/尊敬の見分け、係り結びを含む応用問題。

Q21. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

雨降らせば、止みなまし。

Q22. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

旅装せず。

Q23. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、自ら楽しませたまふ。

Q24. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

知らせねば、答へず。

Q25. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

春来**せ**ば、雪解けなまし。

Q26. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

いざ**せ**む。

Q27. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

内裏より召**さ**せたまへり。

Q28. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

嘆か**せ**たまふ。

Q29. 次の傍線部「けれ」を識別せよ。

道狭**けれ**ば通り難し。

Q30. 次の傍線部「し」を識別せよ。

食事**し**たまふ。

Q31. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

御覧**せ**させたまふ。

Q32. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

月見**せ**ば、夜更けなまし。

Q33. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

自ら歌詠ま**せ**たまふ。

Q34. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

子に水汲ま**せ**けり。

Q35. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

旅**せ**じ。

Q36. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

母、子を寝**させ**たまふ。

Q37. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

行か**せ**ぬ。

Q38. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

知ら**せ**たり。

Q39. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、御琴弾かせたまふ。

Q40. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

行せばや。

Q41. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

来せば、よからまし。

Q42. 次の傍線部「すれ」を識別せよ。

仕事すれども疲れず。

Q43. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

御代を治めさせたまふ。

Q44. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

雨止ませたまへ。

Q45. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

思ひせず。

Q46. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

内裏に参らせたまへ。

Q47. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

月見せば、宴催さまし。

Q48. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、宴を催させたまふ。

Q49. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

紙を破らせたまふ。

Q50. 次の傍線部「し」を識別せよ。

仏事したまふ。

標準編 / 30

【第3部】 応用編 (Q51~Q80)

引用・敬語・係り結びが絡む応用問題。

Q51. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

中宮、御文を書かせたまひて、人にも見せさせたまふ。

Q52. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

春来**せ**ばと夢に見ゆ。

Q53. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

朝廷、僧を召**さ**せたまふ。

Q54. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

嵐、木を倒**さ**せけり。

Q55. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

もし春が来**せ**ば、花咲くまし。

Q56. 次の傍線部「し」を識別せよ。

いと急ぎて旅**し**たまふ。

Q57. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

我れ、笛吹か**せ**じ。

Q58. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、御代を治め**さ**せたまふ。

Q59. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、楽しませたまふ。

Q60. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

庭に雪降らせたまふ。

Q61. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

院、御覧ぜさせたまふ。

Q62. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

もし帰り来せば、よろこびなまし。

Q63. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

嘆かせたまへば、人みな涙す。

Q64. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

殿、いたう驚かせたまふ。

Q65. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

学をせじ。

Q66. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

名にし負はばいざ言問は**せ**む。(改変)

Q67. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

月光に照らさ**せ**たまふ。

Q68. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

いざ立た**せ**たまへ。

Q69. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

主、家臣に書か**せ**たまふ。

Q70. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、御絵を描か**せ**たまふ。

Q71. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

我れ行き**せ**ば、君はとどまらまし。

Q72. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

御娘を入内**さ**せたまふ。

Q73. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

仰せらるるやう。

Q74. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

知らせず。

Q75. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

旅せじと思ふ。

Q76. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

御物の怪に困らせたまへり。

Q77. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

思ふこと言はせず。

Q78. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

殿、御階を上らせたまふ。

Q79. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

風吹きせば、舟漕ぎなまし。

Q80. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

春来**せ**ば、花咲かまし。

応用編 / 30

【第4部】 入試レベル (Q81~Q100)

Q81. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

中宮、御前の物見**さ**せたまふほどに、廂の御簾を上げよと仰**せ**らる。

Q82. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

名にし負はばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人はありやなしや、と問は**せ**たまへば、舟人涙を流す。

Q83. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

御琴弾か**せ**たまへば、心ある人みな涙ぐむ。

Q84. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

雪の降り**せ**ば、いと心細からまし。

Q85. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

御使ひ、走ら**せ**たまふ。

Q86. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

仰**せ**事承りて、退き出づ。

Q87. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

我れも勉強**せ**じ、と思ひゐたるなり。

Q88. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、御製を作ら**せ**たまひて、世に伝へよと仰**せ**らる。

Q89. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

物言は**せ**ばや、と心に願ふ。

Q90. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

中宮、ものの怪に苦しま**せ**たまふを、加持し奉る僧、夜もすがら祈りまどふ。

Q91. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

よし、わが心を**せ**よ。

Q92. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

仏も**せ**ぬ慈悲を、母は子に与ふ。

Q93. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

我れ独り住み**せ**ば、寂しからまし。

Q94. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

院、御製作ら**せ**たまひしを、世に伝ふべし。

Q95. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

旅にし**あ**る人を、慰め**さ**せたまふ。

Q96. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

我れ、人を悲しま**せ**じ。

Q97. 次の傍線部「し」を識別せよ。

法皇、御幸**し**たまふ。

Q98. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

春雨に濡ら**さ**せたまへるかな。

Q99. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

御物の怪、いみじう祈ら**せ**たまへど、なほ離れず。

あとがき

「せ」の識別の核心： - **接続を見る**：連用形＋「せ」なら過去未然、四段未然＋「せ」なら使役・尊敬「す」 - **下接語を見る**：「せ＋ば～まし」なら反実仮想（過去未然）、「せ＋たまふ」なら使役・尊敬 - **主語を見る**：高貴な主語＋下に尊敬語 → 尊敬の二重敬語、それ以外 → 使役 - **サ変「す」一語**は「～せず／～せむ／～せじ／～せばや」など打消・推量・願望と結びつく

「せたまふ」「させたまふ」「せらる」は宮中文学（源氏物語・枕草子）に頻出する尊敬の二重敬語。文脈で誰が動作主かを必ず押さえる。

著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太